

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380752

研究課題名(和文) ソーシャルワークにおけるICT活用モデルの構築

研究課題名(英文) Development of A model for using ICT in Social work practice

研究代表者

西内 章 (NISHIUCHI, Akira)

高知県立大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：80364131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：ソーシャルワークにおいて、多職種連携は必要不可欠である。「多職種チーム」は、実践場面において、多様な情報を扱うため、ICT(Information and Technology)を導入し、効率的かつ効果的に活用する状況がみられるようになった。本研究では、ジェネラル・ソーシャルワークを基礎理論として研究を行った。そして、多職種連携モデルの構築を目指した。「多職種チーム」が保健・医療・福祉分野の多様な情報を整理する枠組みと枠組みを構成する鍵概念(構成子)を検討した。

研究成果の概要(英文)：Interprofessional collaboration is essential in social work practice. Managing and using this information is often challenging in practice, and so interprofessional teams are adopting methods from information and communications technology to make efficient and effective use of the information. This study, based on theories of general social work, aims to develop a model of interprofessional collaboration. We present and discuss a framework for interprofessional teams and the key concepts (components) that facilitate processing of diverse information from public health, healthcare, and social work perspectives.

研究分野：社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク ICT 多職種連携 地域包括ケアシステム

1. 研究開始当初の背景

人々の地域生活を支える地域包括ケアシステムを構築するためには、人的・物的・社会的な地域支援ネットワークが不可欠であり、地域の社会資源の発掘と開発が課題である。そこで、情報の収集にインターネットやモバイル機器などの ICT を活用や、ICT を用いたデータベースを用いて社会資源の情報を管理・共有しようとする取組がみられる。

ソーシャルワークにおける ICT の特性をあげれば、利用者の同意や秘密保持・プライバシー・データの保護ができる ICT であること さらに、利用者が適切に ICT を活用して、サービスの批評や活動できることなども含まれること オンラインでソーシャルワーカーが提供するサービスの情報やアセスメントツールとしての活用もできること ソーシャルワーク教育や専門性を発展させるためにも活用できることなど一定の評価を得ている (Andrew Hill and Ian Shaw 2011)。

ICT の技術は日ごとに進化しているものの、ソーシャルワークにとってまだ万能といえるものではないため (Andrew Hill and Ian Shaw 2011) 実践の用途に応じて、電子カルテやアセスメントツールなど複数の ICT を同時に活用されている。利用者支援において、多様な ICT を包括的に活用するためには、ICT に特化した方法論が必要であるが、ソーシャルワークについては、ICT に関する研究が少なく、地域包括支援センターなどでも日々試行錯誤を繰り返している。

出典 : Andrew Hill and Ian Shaw , *Social Work and ICT* , SAGE Publications Ltd.2011 .

2. 研究の目的

本研究は、ICT を活用するためのソーシャルワークの方法論が構築されていない現状から、この課題を克服するための方策として、包括的な特性をもつソーシャルワークのエコシステム理論を援用して、多様な ICT を活用するソーシャルワークの新たなモデルを

構築するものである。

3. 研究の方法

本研究では、次の方法を用いた。

ICT を活用した地域情報化に関する先行研究レビューを行う。

ICT を活用している保健・医療・福祉専門職へヒアリング調査と事例検討を実施し、ICT 活用モデルの要素を抽出する。

をもとに ICT 活用モデルの試案を作成する。

4. 研究成果

本研究では、ジェネラル・ソーシャルワークやエコシステム構想における ICT の位置づけをふまえて、本研究の枠組みを次のように整理した。

エコシステム構想ではソーシャルワークの理論と実践をつなぐ ICT として、コンピューターを活用したエコスキャナーの開発が行われてきたこと〔支援ツール研究の蓄積〕
地域包括ケアシステムを支える専門多職種連携の場面で、多様な ICT が活用されてきたこと〔多職種連携を推進する ICT〕

保健・医療・福祉専門職や機関・施設をつなぐ支援ネットワークでは情報を収集・共有するために ICT システムが活用されてきたこと〔支援ネットワークへの ICT システム活用〕

まずは、本研究の前提であるとともに本研究の中核でもある。太田義弘を研究代表とするエコシステム研究会の研究をふまえている。従来の勘や経験、馴れや予測だけの対応には限界があり、利用者の参加と協働を支える ICT による支援ツールの研究成果がこれまで蓄積されてきた。

は、地域包括ケアシステムを支える多職種連携の場面で、ICT が活用されていることである。特に、診断画像の評価ツールや健診・保健指導のデータ評価などの情報機器を開発して、多職種連携に活用されている。専門職間の評価

票を統一することや、同じ情報を専門多職種が評価するといった方法である。

は、保健・医療・福祉専門職や機関・施設をつなぐ支援ネットワークの情報収集・共有に ICT システムが活用されてきたことである。

利用者の疾患や経済状況などの個人情報、生活保護や介護保険サービスなどの公的サービス、近隣住民の関わりやボランティア情報などを ICT システムに登録して、それぞれの専門職が、インターネットを介して必要な情報をデータベースから確認・共有して利用者支援に活かしている。

以上をふまえて本研究では、地域包括ケアシステムの問題を整理し、ソーシャルワークにおける ICT の新たな活用展開を検討・考察した。

まず平成 26 年度は、ソーシャルワークにおいて活用される ICT をシステム別に類型化して整理することを試みた。この類型化して整理することにより、マイクロシステムでは、利用者とソーシャルワーカーの支援関係における活用、メゾシステムでは、主に利用者とソーシャルワーカーに加えて他職種との情報の共有・管理として活用されることが明らかになった。エクソシステムでは、ソーシャルワークでは、緊急時等以外には、通常関わらない消防署や警察署などとの情報共有・管理が含まれる。最後にマクロシステムでは、地域住民と行政、サービス供給機関との情報提供・共有を行うために活用されることが明らかになった。

平成 27 年度は、ソーシャルワークにおいて ICT を活用する場合の「情報」の位置づけと実践課題について検討した。利用者の生活に関連した「情報」は多岐に及ぶ。エンゲージメント、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリングなど「ソーシャルワークの過程」において、この「情報」の収集と解釈が実践の鍵となる。また近年では、これらの情報を扱うために、ソーシャルワークの実践において、ICT が活用されるよ

うになった。しかし、利用者の生活に関連する「情報」を、実践場面でどのように収集し、解釈するか具体的なモデルが定着している訳ではない。当該年度の研究では、ソーシャルワークにおける「情報」の位置づけと実践課題に焦点をあてて考察した次第である。そして、ICT を活用したソーシャルワークにおける「情報」の位置づけ、多職種連携における「情報」の位置づけ、ICT を活用したソーシャルワークのモデルを構築するための課題の 3 点について整理した。その結果を大学紀要に論説として掲載することができた。

平成 28 年度は、これまでの研究を基盤にして、ソーシャルワーク実践において、ICT が活用できるモデルの「試案」を検討することであった。具体的には、ICT を活用したソーシャルワークにおける「情報」の認識方法、ソーシャルワークとして多職種連携へ展開する際の ICT 活用の方法、とを整理した上で、この視点から、ソーシャルワーク実践における ICT 活用のモデル素案を検討した。特に、ICT を活用する場面ではソーシャルワーカーのみならず、多職種連携を視野に入れたモデルの構築を進める必要があることが研究を進めることで明確になった。

当該年度の研究活動を通して、ソーシャルワークにおける ICT 活用モデル素案の内訳は、

ソーシャルワークにおいて多職種連携を視野に入れた ICT 活用モデルの「枠組み」、

ソーシャルワークにおいて多職種連携を展開する際に着目する「構成要素」である。

平成 29 年度は、ICT を活用して、地域住民の生活の情報収集・管理・共有を包括的に展開する多職種連携を視野に入れたソーシャルワークに必要な枠組みと構成要素をもとにモデル（試案）を作成し、地域包括支援センターや社会福祉協議会においてヒアリング調査と検証作業を実施した。具体的なモデルは、ソーシャルワークの実践において多職

種連携を前提にしており、利用者理解・支援方法・連携チーム・連携システム活用の4項目を視野にして、32の構成要素を提示している。本研究では、地域包括支援センターや社会福祉協議会、病院等の社会福祉士や精神保健福祉士が、多職種連携の必要性を認識し、多様な情報を包括的に取り扱うことを前提にしている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

西内章、ICTを活用したソーシャルワークにおける「情報」の位置づけと実践課題、『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』65、83-93頁、2016年3月。

西内章、ソーシャルワークにおける多職種連携モデル(試案)の構成子に関する研究、『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』67、189-199頁、2018年3月。

[図書](計1件)

西内章、ソーシャルワークによるICT活用と多職種連携-支援困難状況への包括・統合的研究-、明石書店、219頁、2018年3月。

6. 研究組織

(1)研究代表者

西内章(NISHIUCHI Akira)
高知県立大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：80364131